

平成26年度 第2回磐田市立図書館協議会会議録

日 時 平成27年2月4日(木) 午後3時から午後4時30分まで

場 所 磐田市立中央図書館2階会議室

出席者 委員：兼子修美、村松明子、浅羽浩、鈴木正善、仲川美穂子、青島公悦
高梨俊弘、原田緑(以上敬称略)

(事務局等)

飯田正人教育長

中央図書館：伊藤八重子館長、長島雄一郎館長補佐、青島竜二主査
木村弘之主任、松本栄一囑託

福田図書館：杉本定司館長 竜洋図書館：高尾純男館長

豊田図書館：中崎恒泰館長 豊岡図書館：早澤一成館長

欠席者 委員：平野富美子、東功一(敬称略)

内 容 以下のとおり

1 開 会(青島主査)

出席状況のご報告をいたします。委員10人中8人が出席され、過半数を超えていますので、本日の会議は成立しております。

なお、平野委員と東委員は、所用により欠席との連絡がありましたのでご報告します。

また、「磐田市審議会等の設置及び運営に関する指針」に基づき、本日の会議開催について、ホームページで周知しましたが、傍聴者はおりませんので、ご承知おきください。

それではただ今から、平成26年度第2回磐田市立図書館協議会を開会いたします。

本日の司会進行は、中央図書館の青島が務めさせていただきます。ご協力の程よろしくお願いたします。

2 会長あいさつ

図書館の運営は幅広く、奥が深いため大変な面があります。そのような中で磐田市立図書館は、しっかりした運営を行っていると思います。

今回の図書館評価については、アンケートなどでいろいろな意見をいただきながら謙虚にまとめられています。

今後も委員の皆さんにご協力をいただき、進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いたします。

3 教育長あいさつ

教育委員会では、小中一貫教育の推進に努めると共に、保護者や地域の方々が学校教育活動に関心を持ち、地域の学校として参画・運営するコミュニティ・スクールの導入を積極的に進め、多くの市民の皆さんの温かなまなざしの下で、磐田の子供たちが成長してい

くよう努めているところです。

図書館の関係では、平成 24 年度より順次、中央、福田、竜洋図書館の天井耐震補強工事を実施して安全安心な施設の維持管理に努めてきました。今年度は、豊田図書館の耐震化に伴う工事のため、10 月 14 日から 1 月 30 日まで臨時休館をしましたが、工事の進捗状況に合わせて、図書館の展示室やアミューズ豊田内において受付カウンター等を設置し、予約本の受け取りや新聞・雑誌の閲覧等のサービスの提供を行い、長期臨時休館に伴う利用者の不便さの緩和に努めました。

また、市内の会社から寄付金をいただき、子ども用の絵本や利用者の皆さんになるべく早く読んでいただけるように、新刊本を多めに購入しました。

さらに今年度は、図書館評価や電子図書館関連事業に新たに取り組み、成果を残すことができたと思います。

来年度は、子どもと親が図書館で一緒に楽しく利用できるような施策の研究をしていきたいと考えています。図書館が地域の情報拠点としての役割を十分果たせるように、職員一同で取り組んでまいりますので、委員の皆様にも引き続きご指導いただきますようお願いいたします。

本日は、議題に対する委員の皆様から忌憚のないご意見をいただき、図書館サービスのさらなる向上を図っていききたいと思います。

4 議 事

(司 会): 会議は、磐田市立図書館条例施行第 15 条 1 項で、「会長が議長となる」と規定されておりますので、青島会長に議事の進行をお願いします。

(議 長): それでは、ただ今から議事進行をさせていただきます。よろしくご協力の程、お願い申し上げます。

最初に、議題(1)の「平成 26 年度事業中間報告(4 月～12 月)について」、事務局より説明をお願いします。

(長島補佐): 平成 26 年度事業の中間報告についてご説明いたします。

入館者数は、平成 25 年と比較すると若干ですが、中央、福田、豊岡は減り、竜洋は増えています。豊田が 25.6%減っているのは、耐震工事期間の影響によるものと思われます。全体で見るとここ数年は、減少傾向にあります。

蔵書数は、5 館合計で 865,675 点あります。閉架も一杯で、除籍を考えなければならぬ時期にきています。

以上で、議題(1)の説明を終わります。

(議 長): ただ今説明いただいた議題(1)について、ご意見やご質問はありませんか。

(議 長): 入館者数が減ってきているのは、どんな理由が考えられますか。

(長島補佐): 天平のまちの学習交流センターや予備校など、学習できる場所が以前より増えてきているため、夏休み期間中の中高生の利用が減ってきていることなどによるものと考えられます。

(鈴木委員): 家庭にある本を図書館で引き取ってもらって有効利用して欲しいと思います

が、除籍の方針はどのように考えていますか。

(伊藤館長): 多くの市民の方から、寄贈して一般の方に見てもらいたいという声をいただいています。本と人をつなぐ場所として、各館でリサイクル市を開催しています。寄贈していただいた図書で、地域資料や貴重な資料として所蔵するかどうかは、図書館で判断させてもらっています。寄贈した本を違う方にも読んでもらいたいという寄贈者の思いは、大切にしていきたいと考えています。

(仲川委員): 本はちょっとでもシミなどがあると、リサイクルショップでは、引き取ってもらえませんでした。

(鈴木委員): 業者は商品としての考え方をしていると思います。公立図書館では、寄贈者の気持ちの上に立って、選別やあり方を考えていって欲しいと思います。

(議長): 次に、議題(2)の「平成27年度市立図書館の運営について」事務局より説明をお願いします。

(伊藤館長): 図書館の基本方針の「市民に役立ち、市民とともに歩む図書館をめざします」、運営方針の「くらしとまちづくりに役立つ図書館をめざします」、「子どもたちに読書の楽しさを伝えます」、「資料・情報とそれを求める市民を結びます」、「図書館サービスを利用できる機会を広げます」は、平成29年度まで継続していきます。

重点事業として、平成26年度に実施した図書館評価の結果を踏まえ、図書館サービスの充実、業務の効率化、施設の維持管理の3点を重点に、5館によるネットワークを最大限生かした図書館運営を図ります。また、社会の変化に対応した新たなサービスについて研究し、市民にとって快適で利用しやすい図書館を目指します。

平成27年度の主要事業としては、図書館資料整備事業のうち地域資料の電子書籍化の推進を継続していきます。子ども読書活動推進事業では、茶の間ひととき読書講演会を合併10周年事業とします。また、図書館視覚障害者サービス事業や図書館施設活用事業も継続して実施していきます。施設管理事業では、豊田図書館の屋根塗装工事や豊岡図書館の学習スペースの確保を行います。

平成27年度から29年度までの中期目標としては、子どもの読書環境の充実、子育て世代への支援や、平成28年10月導入に向け、図書館新システムの検討をしていきます。

その他、平成25、26年度に施設管理事業として、天井耐震補強工事などを実施してきました。

以上で、議題(2)の説明を終わります。

(議長): ただ今説明いただいた議題(2)について、ご意見やご質問はありませんか。

(兼子委員): 中期目標の中の「子どもの読書環境の充実、子育て世代への支援」について、学校職員とのかかわりなど、もう少し具体的に教えてください。

(伊藤館長): 学校との連絡会を年1回開催し、学校図書館との連携を図っています。連絡

会では、磐田市子ども読書活動推進計画の学校の読書活動の様子など、進捗状況の報告をしています。年1回だけでは不十分との認識もあるため、今年度の現状把握の報告を受けて、来年度は学校図書館の活動や課題に対して、公共図書館として具体的にどんなことができるかを研究していきたいと考えています。

(村松委員)： 図書館では学校との連携を考えていただいているので、学校側からも働きかけをしていきたいと思います。

(高梨委員)： 中間報告を見ると、中央図書館では入館者の6割位が利用者(本を借りていく)となっていますが、他の図書館は5割位となっています。こういう数字の状況を見て、どんなふうに図書館を運営していくかという課題にもなるのではないのでしょうか。

(伊藤館長)： 高齢化社会の中で、新聞や雑誌を見るだけの滞在型の利用者が多い傾向にあるのかもしれませんが。

限られた資料費ですので、入館した図書館に読みたい本が必ずしもあるとは限りませんが、予約いただければ、5館のネットワークにより、毎日搬送車も出ていますので、読みたい本を取り寄せることができます。

(高梨委員)： 入館者が本を借りたくなるように本の紹介をするなど、利用者が増えるような工夫をしてもらいたいと思います。

(仲川委員)： 来年度、豊岡図書館の学習スペースの確保ということで、机と椅子の設置をするとのことですので、利用者の皆さんに広く周知いただきたいと思います。

(原田委員)： 今年度の図書館評価の結果を次に活かしていかなければならないと思いますが、来年度にどのように盛り込まれているのか、例えば開館時間については、コストの問題等があり、すぐに改善できないということも考えられますが、アンケートの結果の公表や評価した結果について、一つでも二つでも、こうなっていくということが示されればいいと思いますが、いかがでしょうか。

(伊藤館長)： 評価の目的は、現行のサービスを見つめ直し、よりよいサービスを提供できるようにするためのものだとして理解しています。アンケート結果や投書については、館内掲示やホームページへの掲載をすることで公表していきます。

(教育長)： 開館時間の延長は、議会の中でも質問がありました。職員体制などいろいろな問題がありますので、現状維持とします。

(議長)： 次に、議題(3)の「平成26年度磐田市立図書館評価について」事務局より説明をお願いします。

(長島補佐)： 平成20年に図書館法が改正され、図書館評価を実施することが努力義務となりました。全国の図書館で徐々に評価が実施されるようになり、磐田市では平成25年度から準備を進め、今年度実施することになりました。

5月には図書館利用者へのアンケート、8月には市政モニターへのアンケートを実施しました。その後、図書館職員による自己評価を行い、それに基づき11月14日には図書館協議会委員による外部評価を実施しました。3月6日には、図書館のホームページにて公表の予定です。

評価結果と今後の取り組みですが、利用者アンケート、市政モニターアンケート、図書館協議会委員による外部評価のいずれも、図書館に対する評価は高いものとなりました。これは、職員一同、利用者のために真面目に取り組んでいることの現れといえます。

ただし、図書館職員の自己評価の中で、「『図書館の自由に関する宣言等の図書館奉仕の基本理念を市民に広く知らせるようにします』、『図書館サービスの充実を図るため、レファレンスマニュアルの作成をします』、『民族的、言語的、文化的に多様な市民ニーズに即した多文化サービスの方針を作成します』の3点がC評価でした。これらにつきましては、次回の図書館評価の実施までに、B評価以上になるよう取り組んでいきます。

(議長): ただ今説明いただいた議題(3)について、ご意見やご質問はありませんか。

(浅羽委員): 年間、音訳図書完成2点、点訳図書完成3点ということですが、障害者のニーズに十分応えられているのでしょうか。また、人口約17万人のうちの約6,000人の外国人のニーズに対する多文化サービスへの対応は、十分なのでしょうか。それからもう1点、適正かつ効率的な運営という項目がありますが、どんな点で非効率と考えているのか教えていただけますか。

(伊藤館長): 視覚障害者サービスとしては、障害者用のネットワークのデータベースを入れています。利用者が図書館を介さずにダウンロード等を利用している場合もありますので、評価の表記と実態が必ずしも合っていないことも考えられます。

多文化サービスについては、実態把握をして、ポルトガル語の本の購入等の検討をしていかなければならないと考えています。

業務の非効率な点としては、例えば予約本の連絡方法が電話になっている場合、メールに比べると手間がかかったりというように、作成してある業務マニュアルの中でいくつか非効率なものがあります。

(長島補佐): 十数年前に城山中学の先生からブラジル人が読んでおいた方が良いブラジルの本を100冊推薦してもらって、80冊程購入しました。また、7、8年前には、ブラジル大使館からブラジルの本100冊を寄贈してもらい、50冊を図書館に50冊をブラジル人の居住者が多い地区の南御厨公民館に配置しました。利用者はさほど多くないというのが現状です。

(兼子委員): ニーズがあれば英語やポルトガル語の本を図書館から借りて学校に置くことも考えていきたいと思います。

(伊藤館長): 学校現場の声を連絡会等でいただき、多文化サービスについて、図書館で協力できることを検討していきたいと思います。

(議長): 次に議題(4)のその他「雑誌スポンサー制度の状況について」及び、「地域資料デジタル化事業について」事務局より説明をお願いします。

(松本囑託): 雑誌スポンサー制度は、平成23年6月1日から実施していますが、更なる制度の推進を図るため、平成26年1月に感謝状を贈呈するとともに、店先

等で雑誌スポンサーであることが確認できる掲示物を送りました。今後も随時行っていく予定です。

平成 26 年 12 月末の実績は、スポンサー数が 30 社、雑誌数は 35 種類 64 冊、負担額 461,449 円です。平成 25 年 12 月末と比較して、スポンサー数が 4、雑誌数が 2、負担額が 72,595 円の増となりました。

(木村主任): 昨年度の「電子図書館導入にあたっての方針について」に基づき、5 館の郷土資料担当者による協議のもと基本計画書を作成し、241 点の抽出作業を行いました。特に貴重な資料として、豊岡図書館所蔵の松下大三郎の生原稿については、劣化の恐れがあるため、デジタル化とともにマイクロフィルム撮影による保存も行いました。また、文化財課の協力を得て、7 代目市川団十郎の「遠々見ます」も同じくマイクロフィルムでの保存を行いました。このほか、中央図書館の赤松文庫 3,300 点のうち、186 点を含めました。

来年度も継続して行い、地域資料は、歴史文書館の協力を得て、古地図や絵図なども含める予定です。赤松文庫は 150～200 点ほどを予定しています。

簡易な地域資料については、当館所有のスキャナーで郷土担当者がデジタル化し、現用のホームページの容量許容範囲の中で、今年度デジタル化した資料とともに、4 月以降順次公開していく予定です。

(議長): その他、事務局から連絡事項等がありましたらお願いします。

(青島主査): 図書館協議会委員の 2 年の任期が、本年の 5 月 31 日で満了になります。公募 2 名の委員につきましては、「広報いわた」で募集する予定ですが、応募状況によっては、再任をお願いする場合がありますので、ご承知おきください。

(長島補佐): 議会等での要望についての報告ですが、月曜日を全館休館にしないで欲しいとの要望がありましたが、全館を結んでいるコンピュータのメンテナンス等のために月曜日を一齐休館としていますので、今後も継続していきます。

また、中央図書館の土・日曜日の開館時間の延長をとの要望がありました。土・日の利用者にアンケートをとりましたが、「現状でよい」との意見も多く、延長した場合の経費を考慮し、今のところは開館時間の延長は考えていません。

もうひとつ、現在 2 点までの AV 資料の貸出点数を増やして欲しいとの要望がありました。資料のうち、映画の DVD は常に 3 分の 2 が貸出の状態です。多くの皆さんに利用していただくためには、当面は 2 点までの貸出を継続していきたいと考えています。よろしくをお願いします。

(議長): 以上で、本日の議事をすべて終了いたしました。ご協力ありがとうございました。

7 閉会(青島主査)

青島会長、議事進行ありがとうございました。

皆様方のご協力により、予定どおり進行することができました。また、大変熱心にご協議いただき、ありがとうございました。

以上をもちまして、平成 26 年度第 2 回磐田市立図書館協議会を閉会いたします。